

第 7 部

市町村の取組

川崎市



● 環境教育・環境学習推進事業

1. 幼児環境教育

平成16年度から幼児への環境教育の取組をスタートしました。幼児期から自然に親しんだり、日常生活の無駄をなくす工夫をすることによって、将来、環境に配慮した生活ができる「環境市民」になることを目指しています。

平成17年度は、モデル幼稚園において先生や保護者、行政で作成したプログラムをカリキュラムに組み込み、園庭を散歩しながら花や草、土のにおいを感じたり、庭の木の実を食べたり、また、電気、水やトイレットペーパー等の使い方を学んだりするなど、さまざまな取組を行っています。授業の内容に

よって、市の職員や地域環境リーダーが先生役を務めてくれています。



2. 出前ごみスクール

ごみ問題の学習については、従来から社会科副読本「くらしとごみ」や処理センターの施設見学などにより実施していますが、平成17年度から子ども達が実際に触って身体を動かして体験することによって環境問題への理解が深まるように、「出前ごみスクール」のモデル実施を行います。これは、環境局職員が小学校に出張し、実演用のごみ収集車などの機材を活用して、社会科や総合学習の授業において、ごみの減量化・リサイクルの体験学習を行うというものです。

内容は、スケルトン車（中身の見えるごみ収集車）による収集作業の実演、空き缶やペットボトルなどのごみ分別ゲーム、スライドによるごみ処理の流れや3R（リデュース（発生・排出抑制）・リユース（再使用）・リサイクル（再生利用））についての学

習などです。



3. 地域環境リーダー育成講座

地域や職場で環境学習活動や環境保全活動を率先して行う「地域環境リーダー」の育成を目指した講座を毎年開催しています。

この講座では、「環境問題の基礎知識」や「リーダーになるために何が必要なのか」といった内容の講義、自ら課題・問題をみつけ、仲間達と一緒に取り組むグループワークなどを行っています。

平成17年度は、半年間で10回講座を実施する予定です。（平成16年度まで第7期を迎え、既に135名もの修了生がいます。）



横須賀市



● 猿島公園整備事業

横須賀市では、「東京湾唯一の自然島」である猿島を都市公園として整備しています。

新しく整備される管理棟は、水やエネルギーの供給を必要とせず微生物の力で汚水を浄化するエコトイレや、電力を補うための太陽光発電システムを設置するなど、環境に配慮した施設となっています。

猿島は、貴重な生態系や歴史的建造物の残る、自然と歴史が折り重なったふしぎに満ちた宝島です。これらの資源を活用して、島全体がまるごと博物館となるような「エコミュージアム」を目指しており、市民の憩いの場、交流の場とするとともに、環境学習の場としての活用にも期待をしています。



猿島

● ISO 環境マネジメントシステム等の取組

横須賀市は、「人と自然にやさしく、うるおいのあるまち よこすか」の実現に向け、平成11年12月に県内の自治体では初めてISO14001の認証を取得し、環境への取組の改善に努めています。

その活動も6年目となり、省エネ・省資源の取組が限界に近くなる中、地球温暖化対策と循環型社会の形成をより一層推進していくため、環境方針を見直し、また、市役所本来の業務における環境施策を推進するため、平成17年度は有益な目的・目標を新たに17項目追加しました。

こうした中、平成17年11月には外部審査機関による2回目の更新審査を受け、認証を更新しました。

また、財団法人省エネルギーセンターの省エネナビ支援事業を活用して、「省エネナビ」を本庁舎、総合福祉会館及び3行政センターに設置しました。

「省エネナビ」は、分電盤で測定した電気使用量を随時表示する機器で、電気の消費を身近に感じることで、職員の省エネ意識を高め、施設の省エネ対策を推進していきます。



省エネナビ設置状況

平塚市



● ひらつか CO₂CO₂ (コツコツ) プラン ～地球温暖化防止のための市民行動～

平成17年2月16日に京都議定書が発効し、地球温暖化防止に対する市民の意識が高まる中、平塚市では、温暖化の原因となっている“温室効果ガス”の1つである二酸化炭素(CO₂)を、家庭生活の中で減らすための市民行動として、「ひらつかCO₂CO₂(コツコツ)プラン」を平成17年8月15日から実施しています。

この「ひらつかCO₂CO₂(コツコツ)プラン」は、日常生活の中でCO₂を抑制することができる、「テレビの利用時間を減らす。」などの10項目の行動メニューの中から5項目以上を選択し、1か月以上取り組んでもらう仕組みです。

取組を1か月実践した家庭は、取り組んだ項目とCO₂の削減量などを「行動メニュー表」に記載し、市に提出します。市では、提出された「行動メニュー表」を基に、実践家庭を登録し、登録カードを発行します。この登録カードを、ごみ減量化・資源化協力店制度(日頃、簡易包装などを実践している市内中小の商店等の登録制度)に登録している一部の協力店舗で、買物の際に提示すると、割引などのサービスが受けられます。

また、取組を継続してもらうため、1か月取り組んだ後、さらに2か月継続して取り組んだ家庭には、エコグッズとして買物バッグを進呈しています。

この取組は、平成17年度から平成19年度までの3年間継続し、各年度1000世帯の登録を目指しています。登録した世帯数や登録家庭の総CO₂削減量については、ホームページや広報紙等で公表しています。



コツコツプラン登録カード

● 平塚市民・大学交流事業「市民と大学生による里山再生プロジェクト」

平塚市では、市民と市内にある神奈川大学、東海大学の学生が一緒になって、里山の再生を目指す交流事業を実施しています。

平塚市には、「西部丘陵地域」と呼ばれる、緑あふれる自然環境豊かな地域があります。特に、気軽に訪れて、散策や生き物の観察が行える「里山」は、保全していくべき大切な場所として、積極的な活動が必要だと考えています。

この事業では、地元の「里山をよみがえらせる会」の皆さんに協力してもらい、里山を舞台に様々な企画を実施しています。里山の雑木林の下草刈りや間伐など、里山を維持・管理する方法を指導してもらったり、荒廃していた状態から人の手によって立派に再生された谷戸田で、田植えや稲刈りを行ったりしています。参加者は「里山をよみがえらせる担い手」として、よみがえっていく里山の自然環境を自らの五感で直に感じることができます。

今後は、この事業を通じて、市民、大学生、地元の方々がより交流を深めて、平塚市の自然環境がより豊かになるよう、継続的に活動を実施していかねばならないと考えています。



◀ 田植えの様子



下草刈りの様子▶

鎌倉市



●小中学校等による酸性雨実態調査

地球環境問題の多くは、私たちの身の回りでなかなか実感することができません。しかし、酸性雨はパックテスト[※]を使用した簡単な測定で観測できるため、鎌倉市では平成9年度より、市内小中学校などの協力を得て酸性雨実態調査を行っています。例年梅雨の時期に実施しており、平成16年度の調査では、市内37校1,235名の参加がありました。調査結果は市内の酸性雨マップ、調査風景写真、酸性雨の影響についてなどをパンフレットにまとめ、参加校等に配布しています。（同内容は鎌倉市環境政策課ホームページで公表中（<http://www.city.kamakura.kanagawa.jp/kankyo/index.htm>））

児童生徒からは、「酸性雨が本当に降っていることに驚いた」、「場所や時間によって酸性の値がちがう」など、驚きや発見などの声が寄せられ好評です。今後も環境教育の一環として継続する予定です。

※パックテスト：簡単な水質分析器具。ポリチューブに水を吸い込み、指定時間後に吸い込んだ水の変色を標準色と比べて数値を判定するものです。



藤沢市



●藤沢市八ヶ岳野外体験教室太陽光発電システム等設置事業

藤沢市では小中学生等の体験学習施設として開設している「藤沢市八ヶ岳野外体験教室」に、太陽光発電システムおよびハイブリッド街路灯（太陽光+風力）を設置しました。

太陽光発電システムは、集会棟南側の地上にリサイクルウッド製の架台を設置して太陽光モジュール（パネル）を載せ、間近で大きさや構造を見ることができます。また、本館ロビーに大型の表示装置を設置し、発電量やCO₂削減量をリアルタイムで確認できるようにしています。ハイブリッド街路灯は駐車場と本館への導入路に2基設置しました。

この事業は「藤沢市新エネルギービジョン（2004年3月策定）」の中で重点プロジェクトに位置づけられており、小中学生の体験学習機能の充実や環境教育・

環境学習の推進、自然エネルギーの利用促進・普及啓発などを目的とするものです。



藤沢市八ヶ岳野外体験教室 太陽光発電システム
愛称“環ちゃん”

小田原市



● 燃料電池自動車学校キャラバン事業

小田原市では、平成10年に「小田原市低公害車普及促進計画」を策定以来、積極的に低公害車の普及を図っております。普及事業の一環として、将来運転者となる子どもたちが低公害車について学ぶきっかけづくりとして出前講座や低公害車をテーマとした絵画・ポスターコンクールを開催するなど、小中学生向けの事業を展開してまいりました。

こうした中で、次世代を担う子どもたちに自動車が環境に与える影響について知ってもらい、低公害車の重要性を考えてもらうことが特に重要であるという認識から、最新の技術に触れることにより、自動車と環境問題について、より深い理解を与えることを目的として、「燃料電池自動車学校キャラバン事業」を行っています。

平成15年度に開始以来、延べ16校の小中学校を訪問しました。平成16年度からは、神奈川県との協力により、県所有の燃料電池自動車を利用させていただいています。

まだまだ希少な燃料電池自動車を教材としていることで、子どもたちにも深い印象を与え、家庭でも話題になるなど、効果的な環境学習プログラムとなっています。



楽しい授業風景



燃料電池自動車の体験

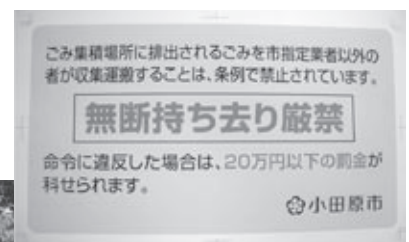
● 資源ごみの持ち去りを禁止するため条例を改正

小田原市では、市民の皆さんがごみ集積場所へ排出された缶や新聞紙などの資源物を持ち去る悪質者が増加してきたことから、廃棄物を適正に処理するため、条例を改正し、持ち去りを禁止することといたしました。

その内容は、市及び委託業者、市が指定する業者以外の者が、缶や古紙類を持ち去ることを禁止し、市等が持ち去りを止めるよう命令したにもかかわらず違反した場合には、最高20万円の罰金を科すことができるものです。

条例改正後、まず、ごみ集積場所に持ち去り禁止を明示した看板を設置するとともに、市職員及び委託職員等によるパトロールを実施いたしました。

条例を施行した平成17年4月以降、軽自動車等を持ち去りを行っていた者がいなくなり、今のところ



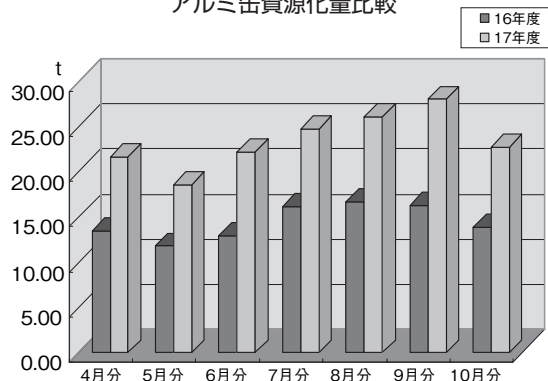
条例施行前に持ち去りを注意する市職員

ろ、口頭注意を行っただけで、命令書を発行した事例はありません。

これらの取組により、アルミ缶の資源化量が大幅に増加しており、売却して得られる収入も増加し、ごみ処理費用を軽減することができています。その結果については別図のとおりです。

今後も、廃棄物の減量化、資源化を推進するとともに、市民の皆さんが安全・安心して暮らせるよう、廃棄物の適正処理に努めてまいります。

アルミ缶資源化量比較



茅ヶ崎市

●環境市民会議「ちがさきエコワーク」

市民(市民団体)や事業者が自主的に、日常生活における環境配慮などについて、情報交換や勉強会を行い、市民の方々に広く啓発活動を行うほか、「ちがさき環境フェア」や「環境市民講座」の企画・運営、

茅ヶ崎市環境基本計画(改訂版)における重点施策事業への協力に加え、今年はちがさき版環境かるたの作成を行うなど、市民、事業者との協働による有意義な活動を行っています。

●茅ヶ崎市自然環境評価調査事業

自然環境に関する市民・事業者・行政の共通認識の形成、保全・活用政策の確実な実施及び適切な誘導に資するよう、平成15年度～17年度の3カ年事業で自然環境調査(植物、昆虫類、鳥類、淡水魚類、両生は虫類、ほ乳類)及び自然環境評価マップの作

成を行うとともに、その過程を通じて、市民団体等と市によるモニタリング・評価のメカニズムを構築し、茅ヶ崎市の望ましい自然環境の保全に寄与することを目的としています。

逗子市

●環境パートナーシップ推進事業

逗子市環境基本計画、行動等指針を推進し、環境の保全及び創造に向けた様々な取組を実践するため、市民・事業者が主体となって取り組む組織として発足した「ずしし環境会議(エコリーダーズ会議)」では、環境基本計画で重点項目として示された「まちなみと緑の創造」「ごみ問題」「二酸化炭素削減」

の3つのテーマに分かれ活動を行っています。

平成17年度は、環境月間や市民まつりでの活動状況の報告を含めた啓発活動や、「環境連続講演会」「環境クリーンセンター見学会」「田越川さかな調査」などの各種イベントの企画・実践等を行いました。

● 二酸化炭素削減事業

市の庁舎及び市立小・中学校(8校)へ太陽光発電システムを設置するとともに、市民への住宅用太陽光発電システム設置費補助を実施しています。また、平成17年度は学校での新エネルギー体験授業や施設見学ツアーなど地球温暖化防止や新エネルギーに係る普及啓発事業を行いました。



新エネルギー見学&体験ツアー（2005年12月）

相模原市



● さがみはら環境まつり ～みんなでつながろう^{エコネット}環境情報の輪～

平成17年6月5日(日)、市民、事業者、大学、行政のパートナーシップで企画、運営する「さがみはら環境まつり」を初めて開催し、約1,000人の市民が集いました。

共催した麻布大学を会場に、大学生70人、高校生20人のボランティアが運営を支える中、「環境の達人たちが贈る“極上メニュー”」と題した展示ブースでは、『感じる』『知る』『動く』をテーマに、44の市民団体や事業者が環境活動の紹介や体験学習の場を提供しました。ホールでは「環境情報センターへ

贈る“メッセージ”」と題したワークショップが開催され、市立環境情報センター（平成18年4月開所予定）の活用方法をテーマに活発な意見交換が行われ、提言がまとめられました。

また、「愛・地球博」のパートナーシップ事業としてモリゾー、キッコロが登場したほか、地域の商店街の協力や環境省の後援を得るなど、実行委員会の提案による幅広い連携や企画が実現し、子どもからお年寄りまで多くの市民が楽しみながら環境について考えるイベントとなりました。



体験学習ブース



愛・地球博のキャラクター モリゾーとキッコロ

秦野市



● 里地里山保全再生モデル事業

秦野市は、平成16年度に全国4箇所の一つとして、環境省里地里山保全再生モデル事業の地域に指定されました。里地里山は、希少種を育む場として、生物多様性保全上重要な地域です。さらに、身近な自然とのふれあいの場、自然環境教育のフィールドとしても欠かせない地域となっています。しかし、近年、二次林の経済的利用価値が低下したことに加え、農山村では過疎化等による管理放棄、都市近郊では開発等の土地利用転換が急激に進むなど、里地里山の消失や質の低下が顕在化しています。このような状況を受け、環境省の「新・生物多様性国家戦略」では、生物多様性の3つの危機の1つに里地里山の危機を位置付けるとともに、重点施策の1つとして「里地里山の保全と持続可能な利用」が掲げられました。

本市では、里地里山の保全再生を推進するため、平成17年度は試行的に次の事業を行っています。

- ・上地区柳川生き物の里管理手法検討会
- ・ヤマビル生息調査
- ・ヤマビル撲滅試験圃の設置

- ・秦野の竹でくま手を作る活動
- ・上地区鹿対策で斜面の刈り払い活動
- ・上地区柳川生き物の里保全再生活動
- ・ボランティア研修
- ・上地区竹林の整備活動
- ・枝打ち間伐里山保全再生活動
- ・落ち葉かきで山の保全活動



名古木里山

厚木市



● 里山マルチライブプラン事業

里山マルチライブプラン事業は、古くから人々の共存・共生が行われてきた里山において、適切な管理も滞り里山の持つ公益的な機能の低下が危惧される今、市民の皆様から環境ボランティアを募集し、里山での生活文化を体験しながら自然との関わりを実感していただき、自然環境保全活動の意識の高揚を図り、本市の豊かな自然環境を保全していこうとするものです。

現在、七沢地区と荻野地区の2箇所で実施しており、七沢地区は棚田への植栽、荻野地区は稲作を中心に活動しています。

また、七沢地区は平成17年度より県の里山支援モデル事業として実施しております。

荻野地区▶



◀七沢地区

伊勢原市



● いせはら環境展の開催 ～市民と協働で啓発～

市民、市民グループ、事業者の皆さんと協働で「いせはら環境展」を6月の環境月間にあわせて開催し、講演会、報告会そして展示をとおして市民の皆さんに環境保全について啓発を行いました。報告会では、高校生、中学生そして市民グループによる身近な環境についての発表がありました。



市民グループの展示

● 硝酸態窒素の改善研究委託 ～環境基準の達成と環境保全型農業の確立～

硝酸態窒素による地下水汚染の状況把握と課題を整理して、地下水の環境基準の達成と環境保全型農業の確立に向けて、肥料や排水等の適正な使用方法と処理等について解決策の検討を東京農業大学に研究委託しています。



土壌のサンプリング

海老名市



● ISO14001 の環境目的目標設定の主な取組

1. 保育園の幼児啓発

毎月15日をISOの日とし、保育園で独自に作成したりサイクルぼうやクルンちゃんの指人形、大型紙芝居、ISOかるた及びリサイクルの歌を使用し、次のとおり保育活動の一つとしてISO集会など環境啓発活動を行っています。

- ・「リサイクルのうた」を歌う。
- ・大型紙芝居「園長先生は魔女さまだった」の上演。



ISOかるた

- 分別ゲーム

実際にゴミを見せ、プラスチック、紙、ペットボトルなどに分別する。

- リサイクルボックス箱にゴミを入れ、リサイクル

2. 環境報告書の発行配布

市の環境経営の内容と有用な情報を公表するとともに、環境コミュニケーションを高めるために、平成15年度から毎年環境報告書を発行し、市民及び関係者に対して無料で配布しています。

3. 契約事業環境配慮マニュアル適用

ISO14001の基本方針であります「海老名市役所環境方針」の実現に向けて、地球及び地域の環境保全を目標として、環境への配慮を積極的に取り組むために、市で行う公共工事の環境配慮マニュアルだけでなく、契約事業においても環境配慮のマニュアルを策定し、

された物品を見せる。

- その他「ISOかるた」などを使用して、啓発活動を行っている。

この報告書では、環境負荷の全体像、平成16年度の環境負荷の低減と環境価値を高める事務事業成果と平成17年度の取組状況、ISO14001の仕組み・運用方法・環境目的目標、認証審査結果などについて創意工夫を凝らして紹介しています。

平成15年度より個々の事業に適用しています。

このマニュアルでは、契約事業を18分類とし、地球の自然と環境、地域の生活環境に配慮する事項を個々の契約に適用し、チェックリストで契約の相手方に周知と環境配慮を求めて環境負荷を低減させ、環境に有益な影響を及ぼすものです。

座間市



● ゆうすい 湧水ざまップ

座間市は地下水が豊富に存在するという特徴があり、市営水道や工業、農業などに幅広く利用されています。

そこで、この貴重な地下水を広く理解していただくために、「座間の水 どこから来るの? どこへ行くの?」をサブタイトルとして、地下水と湧水について分かりやすくまとめた「湧水ざまップ」を作成しました。

このリーフレットは、広げるとB2版の大きさになり、表面には「地下水の流れと湧水のしくみ」と題し、地下水と湧水の説明、自然環境と動植物、湧水の湧出模式図、地下水利用の実態などを記載し、裏面は「湧水案内図」と題し、市内15カ所の湧水の位置と写真、説明、散策経路などを記載しています。



綾瀬市



● 第1回あやせ環境展

綾瀬市は、平成11年11月11日に「環境都市宣言」を行い、環境保全思想の普及啓発を図るため、毎年「環境都市推進講演会」を開催してきました。平成17年度からはさらに多くの市民に関心を持っていただくために「第1回あやせ環境展」を11月18日(金)～20日(日)、市庁舎1階市民ホールにて開催しました。

期間中は、市民団体や企業などによる日ごろの環境活動への取組等のパネル展示や新エネルギー

製品の紹介等を行いました。太陽光を利用した大型ソーラークッカーによる調理実演、有害物質をまったく排出しない「燃料電池自動車」の体験乗車、さき布ぞうりの製作実演は好評を博しました。また、環境カウンセラーの西寿子氏をお招きし、「環境先進国に学ぶ私たちの暮らし」をテーマにドイツやスウェーデンの映像を交えてご講演いただきました(美化ポスター入賞者・美化運動推進功労者表彰式同日開催)。



第1回あやせ環境展



さき布ぞうりの製作実演

大井町



● 第3回大井町環境展の開催

大井町では、現在、地球規模で発生している様々な環境問題とその原因を住民一人一人がしっかり理解し、自発的に環境にやさしい行動をとることができるよう、環境問題に関する住民意識の高揚を目的とした「第3回大井町環境展」を20の団体企業の協力の下、平成17年11月に開催し、総勢2千人を超える来場・参加者を得ました。

また、この環境展ではイベントの開催自体が環境負荷に繋がらないよう、照明のいらない屋外をメイン会場に、ごみ拾いウォーキングを通じた徒歩での来場の呼びかけ、更にはイベント従事者のお弁当の箸や容器もリターナブルのものを指定す

るなど、「エコ&ごみゼロ」なイベントの開催に努めました。

《出典内容等》

環境体験学習コーナー・低公害車試乗展示会
環境にやさしい先進技術・アイデアの紹介
小学生の学習発表・下水道教室
環境問題資料の視聴・閲覧コーナー
不法投棄現状紹介・剪定枝破碎処理事業紹介
不用品交換情報提供・古着回収
地場産食材を使った豚汁の無料配布
環境保全に功績のある団体への感謝状贈呈等

※同時開催

- ・フリーマーケット「もったいない市3」
- ・クリーンキャンペーン2005「ごみ拾いウォーキング」



来場者へ不法投棄撲滅の呼びかけ



フリーマーケット「もったいない市3」



●『なるほど！エネルギー館』山北町会場 開催

山北町では、平成17年9月2日から4日までの間、資源エネルギー庁、関東経済産業局との共催で『なるほど！エネルギー館』を開催いたしました。

この事業は、『エネルギー』をテーマに、次世代を担う子どもたちを対象に全国を巡回する移動科学館で、その大きな特徴としては、ただ見る、聞くだけのものではなく、実際に触ったり、動かしたりすることができる参加・体験型の科学館です。

町ではこの事業を通じて、多くの町民にエネルギーの仕組みや大切さを周知し、限りあるエネルギー資源の効率利用や環境配慮活動のきっかけにと、環境教育事業の一環として実施しました。

会場となる町立中央公民館全館を数日かけて特別改装し、46の参加・体験型の展示物やアトラクションブースを設置しました。当日、その特設会場には、幼児から大人まで幅広い層の参加者であふれ、入場者も絶え間なく続き、大変賑わっておりました。

開催期間中は天候にも恵まれ、延べ約6,200名もの方々にご来場をいただき、新聞記事にも取り上げら

れるなど大きな反響を呼び、盛会裏に終了することができました。



地球温暖化現象の説明



一番人気ロボット“ゆめ丸君”

●山北町新エネルギー講演会 『マー兄ちゃんの地球にやさしい新エネルギーのはなし』開催

当町では、新エネルギー広報（NEF）事業を活用して、平成17年9月24日に関東経済産業局と神奈川県との共催で『新エネルギー』をテーマに淑徳大学教授北野 大先生をお招きし、講演会を開催しました。

講演会では、北野先生の幼少時代における地球環境の話や現在の身近な環境問題について、わかりやすくご説明いただくとともに、エネルギー資源の有効利用や新エネルギーの種類、その活用等についてお話いただきました。

時折、芸能界にいる弟の話や冗談を交えながらの講演は、場内に笑い声が響き、聴いている参加者をあきさせることなくとても楽しい有意義な時間でした。1時間半の講演会は数分のように感じられ、参加者の“もっと聴いていたい”との思いが会場内に充ち溢れ、講演終了時、大きな歓声と拍手に包まれました。

講演終了後のアンケート調査では、『講演会に参加してよかった』『また、聴きたい』とのご意見を多く頂き、この事業が大変好評だったことを改めて再

認識いたしました。

町もこの事業を通じて学んだことや頂いたご意見を参考に、今後の環境教育の推進に役立てるとともに、より環境教育事業の充実を図っていきます。



300名を超える参加者で賑わう会場

“新エネルギー”について
熱く語る北野先生

